

DX戦略策定の目的

進化し続けるデジタル技術を利用し、膨大なデータを保持・活用する企業が、既存の業界や地域・国の垣根を超え、新たな付加価値を生み出し、ビジネスの多様化が加速している。また、ビルメンテナンス業界では、就労者の人口構成変化による労働力不足にも直面している。このDX戦略は、上記のような競争環境において、弊社がデジタルツールをどのように位置付け・導入し、長期的にどのようなデジタル環境を構築していくのか。また、既存の仕事のやり方・働き方・組織体制をどのように変革し、スピードを上げてDX時代を生き抜いていくかを示すものであり、取締役会にて承認したものである。多くの人々の当たり前の幸せを実現する使命を果たすため、以下の通り、実行していくこととする。

DX基本方針

DX推進にあたっては、次の3つを基本方針として、ライバルに差をつける。

- (1) デジタルツールの活用により、既存ビジネスの生産性を改善する。
- (2) デジタル技術と現場のアナログ情報を融合させ、高速PDCAサイクルにより、お客様に提供する付加価値を高める。
- (3) 現場社員を含めた組織横断型活動(社内教育含む)により、デジタル技術を有し自ら業務改善ができる人材を育成する。

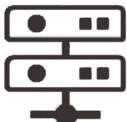
DXビジョンの推進シナリオ

ケーワンテックは、DXビジョン2026を実現するために以下のフェーズに分けて取り組んでいます。

現在

Phase.1 (～2017/3)


オンプレミスグループウェア


自社サーバー



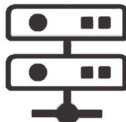
自社PC

Phase.2 (2017/4～2026/5)

クラウド型サービスの利用開始
クラウド型グループウェアの利用開始
タブレット端末貸与


オンプレミス
グループウェア


クラウド型
グループウェア


自社サーバー


クラウド型
サービス



自社PC



タブレット

Phase.3 (2026/6～)

自社サーバー→クラウド型サーバー


クラウド型
グループウェア


クラウドサーバー


クラウド型
サービス



タブレット

Phase.2からPhase.3への判断指標

- ・社内のパソコンの保有台数を71台から35台へ
- ・BIツール活用による業務データの見える化とデータドリブン経営への移行
- ・物理サーバーの利用停止

DX基本ルール

- (1)ファイルのクラウド管理
 - (2)PCファーストからモバイルファーストへ
 - (3)情報の可視化
 - (4)デジタイゼーションの推進
 - (5) ITツールを共通の道具として使いこなし可能性のある道具への投資
- ※2025年10月現在:全社員にiPad支給

【今までにシステムを使って業務改善した内容】

《かんたんシフトサイト》 ※独自開発システム

このシステムを開発するまでは、紙ベースでのシフト希望をExcel表で管理しておりました。その後WEBサイトにシフト情報をアップし、その内容を各スタッフに確認してもらっていたため、シフト希望の回収・複数情報の転記作業・誤入力のチェック等、シフト調整は業務部の残業時間の大半を占めておりました。

そこで、シフトサイトというシステムの独自開発を行い、クラウドで一元管理するようにいたしました。そして、転記作業不要機能・誤入力防止機能なども搭載したことにより、シフト管理業務にかかる時間を大幅に短縮することができました。その分お客様への対応を素早く行えるようになり、お客様満足度向上に繋がっております。またクラウド管理の為、会社に戻ることなくどこでも入力・修正が行えるようになり、テレワーク対応も可能となりました。

【今までにシステムを使って業務改善した内容】

《ファイルメーカー》

○請求書管理システム

今まで請求書はExcelデータで管理・作成を行っていたため、請求漏れや転記作業が多発しておりました。

そこで、自社に合わせクラウド管理可能な請求システムを構築し、エラー確認防止機能・必要項目の自動更新機能等を搭載したことにより、請求書発行業務にかかる時間を大幅に短縮することができました。請求ミス防止によってお客様の不満足度解消に繋がっております。

クラウド管理のため物理サーバーの使用も不要になり、テレワーク対応も可能となりました。

インボイス制度及び電子帳簿保存法へも対応済みとなります。

【今までにシステムを使って業務改善した内容】

《ファイルメーカー》

○写真報告書作成システム

今までは現場で作業写真を撮影し、帰社後Excelで作業完了報告書を作成しておりました。各自で作成するとフォームや精度にバラツキが生じてしまうため、共有サーバーがある会社に戻らないと作成できない状況でした。

そこで、現場で撮影から報告書作成まで出来る写真報告書作成システムを構築いたしました。会社に戻る必要がなくなったため業務時間短縮に繋がった他、フォームや精度を統一できたことで、誰もが同品質の報告書をお客様に提出することが可能になりました。

【今までにシステムを使って業務改善した内容】

《ロボパット》

○これまで、管理業務や経理業務では多くのルーティン作業が発生しており、特に転記作業においては手作業によるミスや、業務の属人化が課題となっていました。

『ロボパット』というRPAツールを導入したことで、これらの転記作業を自動化し、手作業にかかっていた時間を削減するとともに、ミスの発生も解消されました。

【今までにシステムを使って業務改善した内容】

《GASによる業務自動化》

○Google Apps Script (GAS) を導入し、業務効率化に継続的に取り組んでいます。

【例】《請求書自動送信》

以前は、請求書PDFの発行後、担当者が指定日を確認して手動でメール送信し、その後データを手動で保存するという手間がありました。

そこで、保存フォルダから指定データを指定日に自動でメール送信する、というシステムをGASで構築しました。これにより、送信と保存の手作業がゼロになり、業務時間を大幅に削減できています。

DX推進プロジェクト

新規ビジネスの創出・既存ビジネスの深化・デジタル技術活用環境の整備の3つを戦略的な柱とし、以下のDX推進プロジェクトへ取り組んでまいります。

経営テーマ	プロジェクト	2025年度	2026年度
新規ビジネスの創出	独自システムを商品用に改修	リリースに向けて商品のクオリティアップを行う	外部法人との提携による販売チャネルの拡大
既存ビジネスの深化	システムの再構築	独自システム以外のシステムをGWSに一元化する	Appsheetを導入し、GWSの機能及び連携の拡大
	人材育成	ITツール社内活用の深化（マニュアル、フォーム、共通の道具を階層・職位を問わず使いこなす）	DX戦略に基づき、必要なスキルを定義し組織横断で教育の場を継続して提供する
デジタル技術活用環境の整備	バックオフィス業務の電子化	販売管理情報のクラウド型管理	社内情報の連携・業務の効率化

DX推進プロジェクト達成を図る指標

＜新規ビジネスの創出＞

- ・毎年6月に社外のお取引様を招き「経営計画発表会」を実施し経営計画書及び財務指標の報告を行いそこで戦路の達成度を図る指標に基づき成果についての自己評価を開示します。

＜既存ビジネスモデルの深化＞

- ・営業に関わるデータベースをBIツールを用いて構築しデータドリブン経営を実現させる。
- ・力量管理表(スキル表)をBIツールを用いて構築し習得度を向上させる。

＜デジタル技術活用環境の整備＞

- ・バックオフィス業務に関わる社内資料をすべて電子化し、それらのあらゆるデータを連携可能にする。
- ・内勤業務の残業時間10%減を達成する。

DX推進体制

DXの推進を強化するため、管理部と組織横断型のDXプロジェクトを通して、デジタル人材育成・IT導入促進・ITツールの活用サポートを推進することといたしました。

代表取締役社長

管理部

業務部

営業部

パートナーズマネジメント部

安全品質プロモーション部

採用広報部

DXプロジェクト（組織横断型）